

あ と が き

○同じ表紙の色が10号つづいたのでそろそろ変えてみるか、ということになった。取り寄せた紙の色見本によれば、今の色は藤色とある。そういわれてみると藤色だが、本当の藤の花の色はもっと派手な気がする。

●色につけられた名前はとても多い。色のない商品はないから、自由市場経済のもとやたらに増える。先日、自動車のカタログをみていたらピレネーブラックというのがあった。印刷された色からみるとどう見ても黒だが、ディーラーは緑がかった黒だというのが、なぜピレネーか分からない。われわれが子どものころから使っているクレヨン
の茶色もどうして「茶」なのか、これも分からない。

○色といえば、昔、悉皆屋という商売があった。さまざまな色に染めた糸を見本として持ち歩き、紺屋と、白絹地や着物を染めてもらいたい人との仲立ちをする。一種のブローカーだが、客はどうせ粋筋や大店のお内儀だから自分で紺屋へ出かけることはない。客の甚だ手前勝手なイメージと職人氣質の染物屋との間で、染料・染色者のデータを頭に、染め上がりの色見本を手に鮮やかな反物を生み出す商売は、核データ屋といわないまでも、WREND Aグループの仕事をなんとなく思い出させるではないか。

●シグマ委員会各WGやグループの活動を読者に知らせるため、会合が開かれるたびにその内容を簡単に掲載することにした。来号から実行するのでご協力をお願いしたい。ところで本ニュースの表紙の色の変更だが、背文字も入ったことだし、変えないのも本欄などにおける存在を印象づけるというわけで、今回は見送られることになった。

(喜多尾)

編集委員

中川 庸雄(委員長、原研)、浅見 哲夫(NEDAC)、井頭 政之(東工大)、
喜多尾 憲助(放医研)、高野 秀機(原研)、中島 豊(原研)、片倉 純一(原研)